

## 斑点米カメムシの防除を徹底してください！

病害虫防除所が7月上旬の県北部のイネ科牧草地で実施したすくい取り調査（20回振り／ほ場）によると、斑点米の原因となるアカスジカスミカメのほ場あたりの虫数は19.2頭で平年（40.3頭）に比べて少ないものの、赤磐市の予察灯における誘殺数は、6月1半旬から6半旬で505頭（平年225.4頭）、7月1半旬で186頭（平年74.2頭）と平年より多く、過去10年間で2番目に多くなっています。

広島地方気象台が7月11日に発表した1か月予報によると、降水量は平年並か多いとなっていますが、気温は高くなるとされており、本虫の加害や増殖にやや好適な条件となるため、防除対策の徹底が必要とされます。

### 1 防除対策

- （1）斑点米カメムシ類にとってイネ科植物の穂は餌であり、産卵場所でもあるため、水田周辺のイネ科植物は除去する。ただし、穂のついたイネ科植物を水稻の出穂2週間前から出穂後3週間の間に除去すると、斑点米カメムシ類をかえって水田に追いやることになるので避ける。
- （2）休耕田でイネ科植物が繁茂している場合は、休耕田のカメムシ類を対象とした薬剤防除を行うこともできる。
- （3）斑点米カメムシ類の防除は2回必要とされており、主要発生種がアカスジカスミカメである場合は以下の防除時期となる。
  - 1回目の防除：穂揃期（ほ場全体の80～90%が出穂した状態）
  - 2回目の防除：1回目の防除から7日後注）ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシなどが主要発生種である場合、1回目の防除は穂揃期の3～7日後（乳熟初期）、2回目の防除は1回目の防除から7日後である。その後の発生が多ければ、3回目の防除を2回目の防除から7日後に行う。
- （4）薬剤防除は農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。水田に農薬を散布した後は、少なくとも7日間は落水・かけ流しをしないようにする。

### 2 防除上の参考事項

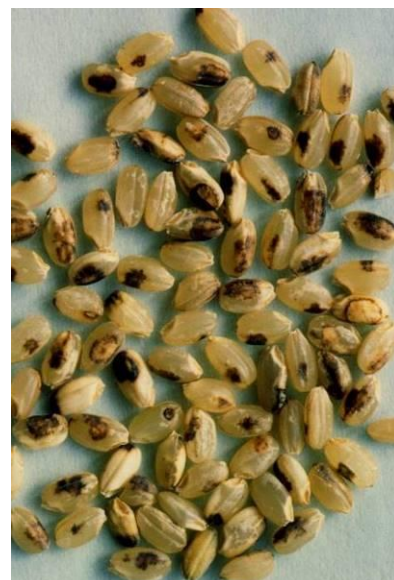
- （1）極早生品種、早生品種栽培地帯では出穂期～穂揃期に斑点米カメムシ類の発生が多くなり、被害が出やすい。
- （2）周辺より出穂の早い水田では集中的に飛来してくる傾向があるので防除の徹底を図る。
- （3）斑点米カメムシ類は、山間棚田、山寄りの水田、イネ科雑草繁茂地・休耕田・イタリアン

ライグラス等イネ科牧草地の周辺の水田で発生が多く、特にアカスジカスミカメはイタリアンライグラス等イネ科牧草地で多い。

- (4) 出穂直後から 20 日後までを加害時期とするアカスジカスミカメの体色は淡緑色を帯びており、体長が 5 mm 程度と小さく肉眼で確認しにくいいため、本田での発生の把握には捕虫網によるすくい取り調査が必要である。
- (5) 出穂直後から収穫期までの全期間を加害時期とするホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシは、前者の 2 種が体長 10～17 mm 程度と大きいこと、後者の 2 種が体長 5～7 mm 程度と小さいものの灰褐色～黒色で見分けやすいことから、本田での発生が肉眼で確認できる。
- (6) 斑点米カメムシ類の発生は、本田の畦畔近く（本田の周縁部）で多く、中央部で少ないとされており、発生密度に偏りがある。よって、すくい取り調査や肉眼による観察は本田の畦畔近くで行う。



アカスジカスミカメ成虫（体長約 5 mm）



斑点米

表 水稲のカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和6年7月現在）

薬剤名	剤型	農薬使用基準			IRAC コード
		希釈倍数・使用量	使用時期 (収穫前日数)	総使用回数 (有効成分)	
トレボン*	粉DL	3～4 kg/10a	7日前まで	本田：3回以内 休耕田：3回以内	3 A
		3～4 kg/10a（休耕田）	—		
	乳，MC	2,000倍	14日前まで		
		2,000倍（休耕田）	—		
EW	1,000倍	14日前まで			
	1,000倍（休耕田）	—			
スタークル・ アルバリン	粉DL	3 kg/10a	7日前まで	本田：3回以内 休耕田：3回以内	4 A
		3 kg/10a（休耕田）	—		
	粒	3 kg/10a	7日前まで		
顆溶	2,000倍	7日前まで			
	2,000倍（休耕田）	—			
スタークル豆つぶ	（豆粒）	250g/10a	7日前まで		
ダントツ	粒	3～4 kg/10a	7日前まで	本田：3回以内 休耕田：4回以内	
		3～4 kg/10a（休耕田）	—		
	粉DL	3～4 kg/10a	7日前まで		
		3～4 kg/10a（休耕田）	—		
溶	4,000倍	7日前まで			
	4,000倍（休耕田）	—			
フロアブル	5,000倍	7日前まで			
	粉DL	3～4 kg/10a	14日前まで	2回以内	2 B
		4 kg/10a（休耕田）	—		
	粒	3 kg/10a	14日前まで		
1,000～2,000倍		14日前まで			
フロアブル	2,000倍（休耕田）	—			
	粉DL	3 kg/10a	7日前まで	本田：3回以内	4 C
フロアブル		2,000倍	7日前まで		
エミリア	フロアブル	1,000倍	7日前まで	本田：2回以内	4 F

農薬を使用する前には、必ず農薬ラベルの記載内容を確認する。

\*の薬剤は、水産動物に対する危害が発生するおそれのある地域では使用しない。

\*\*の薬剤の有効成分である「エチプロール」を含む農薬の使用回数は2回以内であるため、使用回数を超過しないよう注意する。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。



岡病防第12号  
令和6年7月18日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

植物防疫情報第5号の発表について

植物防疫情報第5号を別添のとおり発表したので送付します。